

令和 5 年度 県立牛久高等学校自己評価表

目指す学校像	「進路を極める牛久」、「人間性を高める牛久」、「国際社会を生きる牛久」を3つの柱とし、「チーム牛久」を掲げ教職員が一体となり、生徒が安全かつ安心して様々な教育活動に参加し、自らの意志で学び活動できる環境をつくる。 また、「学び続ける教師像」として「ともに学びともに汗を流しともに成長する」を念頭に、教育活動を計画し実践する。 進学校として生徒一人一人の進路希望の実現を目指し、国際社会に生きる豊かな人間を育成するなど、知育・徳育・体育の全人的教育を行い、地域から信頼され存在感のある学校を目指す。 さらに、教職員と生徒とのコミュニケーションを密にし連携を取り、生徒の自尊意識、自己肯定感を高め、人間関係構築力を磨く。 ① I C T を活用し、学力向上と進路指導の充実を図る。②人間性を育む指導と部活動の充実を図る。③社会の変化に応える国際教育の充実を図る。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 国際感覚を身につけ、社会に貢献できる人財 自ら課題を発見し、探究していくことができる人財 自己の特性を理解するとともに他者を尊重し、多様な人々と協働できる人財	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 社会とつながる機会として、「探究活動」、「異校種との学校間交流」を設定する 「先輩の話を聴く会」、「大学模擬講座」などの行事を実施し、キャリア教育を推進する 科目によって習熟度別の授業や課外授業を設定し、一人ひとりのニーズに応える 科目横断的な学習内容を多くの科目で設定し、グローバルなものの見方を養う	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 明るく 対話・議論を通して、相手の思いをくみ取ることができる生徒 たくましく I C T を活用し、主体的に学ぶ姿勢を持った生徒 やさしく 多様性を認め合い、世界に目を向けることができる生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
ホームルーム担任による個別面談や授業担当者による個別学習指導など、生徒一人一人に応じた丁寧な指導を行っている。 学習指導面では、アクティブ・ラーニングの手法を用いた授業の研究・実践に学校全体で取り組み、さらに I C T を活用し、目的意識を持った自主的な学習習慣の確立を促している。 一方で家庭学習は二極化の状況にあり、家庭学習時間の確保、進路目標の早期設定による自学意識の向上が継続的課題である。	学習習慣の定着化	①教員相互の授業研究やアクティブ・ラーニング型授業、I C T を活用した授業に関する研修を充実させ、生徒の学習意欲を高めるとともに、「わかる授業」や生徒間の学び合いの工夫・改善に努める。 ②効果的な週末課題・小テストを工夫し、継続的に実施する。 ③生徒個々のタイムマネジメントを確立させ、家庭学習時間を確保させる。 ④検定試験（英検等）の受検を積極的に推奨し、資格を取得させる。	B
	進路意識の高揚	⑤大学入学共通テストを含む進路に関する必要な情報を効果的に提供し、早期に進路目標を明確化させる。 ⑥進路目標達成のためにキャリア教育を充実させ、効果的に取り組み、	A

別紙様式 2 (高)

進路実績としては国公立大学に 28 名が現役合格した。私立大学への合格者は延べ人数が 400 名を超えるなど、学習・進路指導での成果がみられている。 生徒指導面では、自律的生活習慣の確立を促し登校指導や始業前学習活動「朝活」を通年で実施しているが、さらに今後も支援や対策が必要である。生徒の規範意識は高く、ホームルーム活動や学校行事への参加は意欲的であり、生徒の主体性を伸長できる環境づくりを目指したい。		生徒一人一人のキャリア意識を高揚させる。 ⑦進路希望実現に向けた学力向上のために、積極的に課外授業に参加させる。			
	人間性の向上	⑧全職員の共通理解と協力の下に、「USHIKU PRIDE～守の章～」をスローガンとして規範意識を一層向上させる。 ⑨生徒と教職員とのコミュニケーションの機会を増やし人間関係構築力を育み、自尊意識や自己肯定感を高めていく。	A		
	特別活動への自発的取り組み	⑩ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の内容を工夫し、生徒一人一人の成長に繋がるものとする。キャリア・パスポートを積極的に活用する。 ⑪運動部、文化部の主体的な活動を積極的に支援する。 ⑫生徒を校内外の研修会に参加させ、各活動のリーダーの育成を図る。	A		
	国際教育の推進	⑬国際教育に係る行事を取り入れて、異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、「つながる」ことのできる力を育む。 ⑭生徒を本県主催の国際教育研修に積極的に参加させ、グローバル化に対応できる人材を育成させる。	A		
	働き方改革の推進	⑮学年、教科、校務分掌等における業務の精選を行うとともに、学校行事の精選を進める。 ⑯校務の I C T 化や教材の共有等を進め、業務の効率化を図る。	B		
	授業改善	⑰生徒一人一人が主体的・対話的に学びながら、「わかる授業」を実践し、授業満足度（K P I）3. 0を目指す。	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科指導	わかりやすい授業を展開する。	目標に沿った授業計画を立て、I C T を活用し、生徒の学習への理解と意欲を高めるとともに、アクティブ・ラーニング型授業の導入を通じて、生徒の主体的な学習姿勢を促す。①②③	A	I C T のさらなる活用を図り、主体的・対話的、深い学びの実践を目指す。 自主学習や学力の定着・習慣化を図るため、生徒に対する多様な視点からのアプローチが必要である。 大学共通テストに向けて、思考力・判断力等の求められる能力の育成を図る。	
		授業や学習指導に関する教員間での情報交換を密に行い、授業改善に生かす。①②③⑤⑥⑦	A		
		生徒の学習状況や理解度を測り、指導に生かす。①②③⑦	B		
		1・2 年次の教科全体において基礎力・応用力養成を図る。①②③④⑦	B		
	学習習慣を確立する。 基礎力・応用力を養成する。	1・2 年次において、英語・数学・国語の 3 教科を中心に週末課題や小テストを継続して実施する。②③④	A		
		生徒の実態に即し、3 年次における課外授業を充実させる。⑤⑦	B		
	HR 担任による面談指導を適宜行い、英語・数学・国語の主要 3 教科の学習時間・学習方法等について指導・助言する。①③⑥⑦	A			
国語	「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の能力を総合的に高め、全ての教科の基礎	【1年】『現代の国語』では、実社会に必要な国語力を身につけるために、「読むこと」に関して、読解及び鑑賞を通して理解力を高める。「書くこと」「話すこと・聞くこと」に関しては教科書の「表現教材」や I C T を活用し、自らの考えや意見を効果的に表現し、伝え合う能力を育成する。①②③	A	A	実践的な教材として、I C T の活用をより効果的に行いたい。

別紙様式 2 (高)

	としての国語力を培う。 課題解決能力を養うとともに 国語に親しみ、自国の文化を 尊重する態度を育てる。	「言語文化」では、我が国の言語文化への理解を深めるために、基本的文法事項を体系的に学習する。また 古典に親しむ態度を身につけさせ、基本事項や有職故実・時代背景の理解を深めさせる。特に古典文 法と漢文句法に関しては、習熟の徹底を図る。 ①②	B		課題や小テストも含めた年 間の見通しを、年度当初から 明確にしておきたい。
		【2年】「論理国語」では、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、自分の考えを広 げたり深めたりすることを目指し、「評論」を幅広く学習する。さらに、要旨まとめを通して、主体的な 「読み」ができるようにする。 ①②③	B		
		「古典探究」では、授業や課題を通して、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けると ともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めさせる。特に基本語彙や文法事項、古典常識 に習熟させる。 ①②③	A		
		【3年】「現代文」では、教材ごとに読解のポイントを明確にしつつ、読みを深めさせる。また、実践的な教材 を効果的に取り入れ、入試に対応できる力を育成する。 ①②	A		
		「古典」では、基本事項の確認を行うとともに習熟度を高め、読解力の向上を図る。また、実践問題 も積極的に取り入れて入試に対応できる力を育成する。 ①②	A		
		「国語表現」では、様々な教材・資料を用いて「考える力」を高めさせ、時にはI C Tを活用して目的や 対象に応じて適切に表現・伝達できる力を育成する。 ①②	A		
		授業の目標や課題をわかりやすく設定し、教え方の工夫を図る。 ⑦	A		
地理歴史	日本史、世界史、地理を関連づ けて歴史的、地理的な見方や 考え方を身につけさせる。 大学入試問題に対応できる学 力を養う。	K P I の向上を目指し、わかりやすい授業及び展開を工夫して、地理的事象及び歴史上の出来事の基礎 的知識を定着させる。 ①②⑦	A	A	I C T 活用などを通じて、生 徒の学習習慣の確立と主体 的な授業参加の取り組みを 推進できた。
		生徒が興味・関心を持ちやすい資料を提示して、学習への意欲を高める。 ①②	A		
		授業の中に小テストだけでなく、演習・作業など言語活動を取り入れ、自主学習を動機づける。 ①②	A		
		大学入試問題演習に早期に取り組み、入試に適応できる学力を身につけさせる。 ①②	B		
公民	現代の諸課題への関心を高め る授業を展開し、自分の考え を表現できる態度を養う。	政治・経済・社会の諸問題について、時事的資料を活用するなどして関心を高め、基礎的事項の定着を図る。 ①②	A	A	I C T 活用などを通じて生 徒の主体的な学習参加の姿 勢を後押しできた。
		授業満足度を高めるとともに、授業の中に小テストだけでなく、演習・発表など言語活動を取り入れるこ とにより、自主学習を動機づける。 ①②⑦	A		
		法やルールの基本的な考え方を学ばせ、日常生活でも規則を遵守するように意識化を図る。 ①⑥⑦	A		
		大学入試問題演習に早期に取り組み、入試に適応できる学力を身につけさせる。 ①②	B		
数学	論理的思考力、判断力を身に つける。 基礎学力の向上を図る。 家庭学習を行う習慣の定着に 努める。	I C T を活用する場面を適切に選択し、主体的・対話的な学習活動をすることで、論理的な思考力、判 断力を育てる。またこれらの活動により、生徒の「わかる」を増やし、授業の満足度(K P I)の向上 を目指す。 ①⑦	B	A	I C T を活用する場面が、関 数と統計の分野に限定され ているので、他の分野での良 い活用法を見いだしていき たい。
		計算力・基礎学力を向上させるために、演習や小テストを実施する。 ①②	A		
		課外の目的を明確にし、内容の充実に努める。 ①③⑦	A		

別紙様式 2 (高)

	進路目標を実現するための実力を養う。	週末課題・考査ごとの課題を点検し、家庭学習が定着するように指導する。また、週末課題等が十分でない生徒の指導を工夫する。 ①②③	A		
理科	好奇心を喚起する授業を展開し、自発的学習を促す。 論理的に考える力をつけさせる。 受験に対応できる力をつける。	I C Tを活用して、実験・実習や身近な自然現象の解説を行い、そこから得られる素直な驚きや発見を重視し、教科に内在する魅力に気づかせることで自発的な学習の姿勢を育てる。 ①③	B	B	「知識の定着」と「思考力・表現力」の指導の両立 教科内における、3観点評価の理解共有
		授業内容の背景にある原理原則に目を向けさせ単に知識を獲得させるだけでなく、授業満足度の向上を目指しながら、科学的なものの見方・考え方が身につくように工夫する。 ①②⑦	A		
		進学希望をかなえる学力をつけさせるため、授業中の演習・小テスト・課題学習をスモールステップで実施する。また、模試や定期考査の振り返りをさせることで、効果的学習方法の確立をサポートする。 ②③	B		
保健体育	各種の運動の合理的実践を通して、運動技能を高め強健な心身の発達を促す。 個人及び社会の健康についての認識を深め、生涯を通じて健康に関する課題を解決する能力を育成する。	体力向上を目的として、合理的な練習法を習得するための思考力・判断力・表現力を養う。また運動量の確保、運動の習慣化を図る。 ①⑨	A	A	体育関係行事の見直し（時間、内容等） I C T機器の活用・W i - F i の接続
		事故防止に努め、公正・協力・責任などの社会的特性の涵養に努める。 ①⑨	A		
		授業満足度の向上を図るとともに、生涯を通じて継続的な運動ができる能力と態度を育てる。 ⑥⑨⑦	A		
		個人及び社会の健康についての認識を深め、それらの課題解決に向けた思考力・判断力を育成する。 ①⑨	B		
芸術（美術）	美術の創造的な諸活動を通して、個性豊かで表現力・美術の能力の向上を図る。	I C Tを有効活用し基礎的な美術用語の理解と制作に必要な技術の理解及び定着に努める。 ①②	A	A	対話的、実践的な活動の場面をさらに工夫し増やす。 W i - F i の美術室への接続・I C Tのさらなる活用
		様々な課題に取り組むことを通じて個性の伸長を図り、生涯にわたり美術を愛好する心を育てる。 ②	A		
		生徒一人ひとりが主体的に学びながら理解を深める対話的、実践的な活動を取り入れ、授業満足度（K P I）の向上を目指す。	A		
芸術（音楽）	音楽の幅広い活動を通して音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などのかかわりを理解し、創意工夫を生かした音楽表現ができるよう技能を身につける。 ①②	A	A	曲想と音楽の構造、歴史的背景との関わりを理解すること、愛好する心情を育むための教材、指導の工夫 W i - F i の音楽室への接続・I C Tのさらなる活用
		主体的・協同的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育むとともに感性を高め、音楽を通して生活や社会を明るく豊かにしていく態度を養う。 ①②	A		
		生徒一人ひとりが主体的に学びながら理解を深める対話的、実践的な活動を取り入れ、授業満足度（K P I）の向上を目指す。	A		
英語	自ら目標を立て、その達成に向けて自主的に学習しようとする態度を育てる。 英語の4技能を総合的に高め、基本的なコミュニケーション能力を身につけさせる。 英語学習を通じて異文化を理解し、広い見識をもたせる。	【1年】英語で行う授業を通して4技能を統合的に高める指導を工夫し、実践的コミュニケーション能力の基礎を育成する。 ①③	A	A	生徒が主体的に学び、理解を深める活動をより多く取り入れる。
		ペアワークやグループワークなど生徒主体の活動を展開し、「使える英語」を身につけさせる。 ①④	A		
		語彙力を高め、基本的な文法や文の構造について理解させる。 ②③	A		
		【2年】英語で行う授業を通して4技能を統合的に高める指導を工夫し、実践的コミュニケーション能力を育成する。 ①②④	A		
		定期的に語彙テスト、構文テストを実施し、基礎的な英文解釈の力を身につける。 ②③	A		
		様々なジャンルの英文を読み、読解力を養うとともに、異文化理解を深める。 ③⑬⑭	A		

別紙様式 2 (高)

		【3年】文法学習を完成し、英文を正確に解釈できる力を身につける。②③	A		
		長文の論理的な読み方を習得し、正確に、かつスピードをつけて読む力を身につける。①③	A		
		生徒の進路に応じた課外授業を実施し、実態に即した指導を展開する。①④	A		
		【全学年】ICTを活用し、わかりやすい授業の工夫・改善に努める。①	A		
		継続的に週末課題・小テストを実施し、学習習慣の確立を促す。②③	A		
		生徒一人ひとりが主体的に学びながら理解を深める対話的な活動を取り入れ、授業満足度（KPI）の向上を目指す。⑰	B		
家庭	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけさせる。	各自の生活に目を向けさせ、課題意識をもたせるようにし、具体的な事象を例に生きることについて考え、自立と共生の視点から、基礎的・基本的な知識と技術について総合的にICTを活用し、生徒一人一人が主体的・対話的に学びながら「わかる授業」を実践しKPIの向上を目指す。①②⑰	A	A	実験実習におけるICTの活用をさらに進めるためのWi-Fi環境の整備
		学習した知識や技術を生かし、各自の生活の中で実践する態度を育てる。①②	A		
教務	生徒の主体的・対話的で深い学びを支援する。	ICTを活用した「わかる授業」の展開と、アクティブ・ラーニング型授業等による生徒の主体的・対話的な授業参加を促し、深い学びにより学力増進に努める。①②③	A	A	ICTを活用した「分かる授業」の実践、生徒と教師の双方向のやり取り、教員の負担軽減を図る。生徒の学力増進に向け、自主的・主体的・計画的な学習習慣を身につけさせるためのアプローチが課題である。
		各種検定試験の積極的な受検を促し、明確な目的意識を伴った学習習慣を持たせる。①④⑥	A		
		シラバスの活用により、授業進度を明確化し、生徒の計画的学習を習慣化させる。①②③⑥	B		
	教科指導面での積極的な連携を図る。	学習指導要領に基づいた教育課程編成の在り方についての研究を推進する。①⑥	B		
情報	校務支援システムを整備する。 情報部体制を確立する。	成績処理・指導要録・調査書のシステムを総合的に整備する。⑤⑥	A	A	新年度に向け、事前にできることを整理し、新しい書式の調査書や要録の準備を進める。
		P T A会員名簿、学年名票、科目別名簿、担任文例集、座席表等を整備する。⑨⑩	A		
		情報部が組織として継続的な対応ができるように教員間の業務を補う体制を構築する。⑩⑯	A		
特別活動	望ましい集団生活を通し、調和のとれた心身の発達と個性の伸張を図り、集団や社会の中でより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育て人間力の向上を目指す。	基礎的な生活集団としてのHR活動を充実させる。⑧⑩	B	A	生徒会選挙の日程変更、文化祭の日程・内容（調理等）、生徒会費の見直しなど。
		部活動の活性化とその条件整備に努める。⑪⑮	A		
		ボランティア活動等をとおして、相互扶助の精神を養い、社会への参画を促す。⑥⑧⑫	A		
		各種行事の充実と生徒会活動の活性化を図る。⑧⑩	A		
		生徒にとって魅力ある学校生活づくりの企画・実行・援助を行う。⑨⑩	A		
		活動内容をキャリア・パスポートに記録し、積極的に活用する。⑥⑩	B		
生徒指導	自律の心を育み、基本的生活習慣の確立を目指す。	生徒をより深く理解しようという意識を持って指導に当たるとともに、生徒のコミュニケーション能力の向上に努める。事故の未然防止に努め、長期休前後に頭髮検査を実施する。6月・10月には、衣替えに伴う立哨指導を実施する。昼休みには学年ごとに巡回指導を実施し、事故の未然防止に努める。夏祭り等における保護者を含めた巡回指導を実施する。定期的に駅前や学校周辺の登下校指導を実施する。⑧⑨	A	A	朝活キャンペーンを時間通りに実施するために、朝活前遅刻を少なくする。
	遅刻防止・欠席者減少に努め	今年度も「朝活」キャンペーンを実施し、8時30分登校を行っていく。遅刻の延べ人数も減少しているの	B		

別紙様式 2 (高)

	る。	で継続して進めていく。生徒との信頼関係を軸に生徒に寄り添った指導を行い、登校渋りや不登校気味の生徒に対する支援を充実させる。 ⑧⑨			
	交通安全教育に努める。	年度初めから全校生徒に危険箇所を把握させ、事故に遭った時の対応も周知徹底させる。1年生には牛久高校周辺危険箇所マップを配付し、初期指導やHRを利用した交通安全教育を行うとともに、教科「保健」の協力を得て、交通事故単元の充実を図る。年間2回の自転車安全点検を実施する。原付バイク免許取得者対象に実技講習会を実施する。普通車免許取得者及び教習所入所者対象に交通安全指導を実施する。昨年度13件より交通事故件数を減少させる。 ⑧	A		
	不審者対策に努める。	不審者に関する通学路危険箇所を認識し、迅速な情報提供に努める。地域、警察、保護者との連携に努め、未然防止に努める。 ⑧	A		
進路指導	個々の生徒の能力・適性に応じた進路指導を通して、生徒の進路希望の実現を図る。	進路希望・学習時間等に関する調査を実施し、生徒の実態を把握するとともに問題点の検討をし、学年の適切な進路・学習指導をサポートする。 ⑤⑥	A	A	新課程入試に向けた情報の収集と受験指導 年内入試に向けた指導体制作り 各学年との連携強化 生徒一人一人の希望進路実現に向けた適切な支援を可能とする体制作り 生徒の進路意識の高揚 ICTを活用した進路指導の充実
		全国的な視野で生徒の学力状況の把握・評価を行う（進路講演会・進路研修会・模試分析会・志願校検討会・国公立推薦入試の指導等） ③⑤⑥	A		
	1年「自己探求」、2年「自己伸長」、3年「自己実現」を学年の進路目標に掲げ、生徒の進路意識の高揚を図る。	各学年と連携をとり、各種進路行事の企画・立案をする。 ⑤⑥⑬	B		
		大学・専門学校の公開講座の受講、オープンキャンパス等への参加を勧める。Webサイト等の活用を積極的に推奨する。 ⑤⑥	A		
		進路相談室の資料等を整理し、より利用しやすくするとともに、進路相談に適切に対応できるように努める。指導にあたっては生徒用PCの利用やICTの積極的な活用を通して、個々に応じた丁寧な指導を心がける。 ⑤⑥	A		
	各学年との連携を図りながら、より組織的な進路指導体制を構築する。	「進路の手引き」、「進路要覧」および「進路面談」を発行し、適切な情報を提供して学年の適切な進路指導をサポートする。指導に際しては、ICTを積極的に活用する。 ⑤⑥	A		
		入試情報・結果・模試結果等は、ICTを活用して速やかに提供・共有化し、学年や教科の学習・進路指導の改善に寄与するように努める。 ⑤⑥⑬	A		
		進路行事や進学指導の企画・運営について進路指導部を中心に、学校全体で学年に協力が出来るような体制作りに努める。 ⑤⑥	B		
保健厚生	生徒の発育・健康状態を把握し健康の維持増進に努める。	心身のケアに生かせる保健室経営に努める。緊急時に備えてAEDを校内に置き、緊急時に対応できるようにする。 ⑩⑪	A	A	清掃時間をコロナ前に戻し、全職員と生徒が一斉清掃する。 3階渡り廊下屋上通路の使用を想定した避難経路は緊急時に施錠されている可能性もあるので、別の経路を検討する。
		学校医・薬剤師の協力体制を維持強化する。保健委員の活動促進を図る。感染症の予防に努める。 ⑩	A		
	学習環境の整備と校内の美化に努める。	日々の清掃に留意し、清潔な学習環境作りに努める。年間計画の中にワックスがけの日程を設定する。 ⑩	A		
		清掃用具を随時点検・補給する。生徒による環境美化の精神を向上させる。エアコンの適正な運用に努める。 ⑩	B		
	災害発生に備えて、十分な準備をしておく。	保健委員・整美委員・防災委員の活動の促進を図り、防災意識を高める。 ⑩	A		
		生徒・職員による避難訓練を実施し、災害発生時における人的・物的被害を軽微に抑えることに努める。	B		

別紙様式 2 (高)

			⑩			
図書	図書の紹介や読書指導を通して、読書意欲の向上を図り、読書に親しむ態度を育成する。	生徒・教師の要望を満たすバランスのとれた図書選定をする。	①⑤⑥⑨⑩⑪⑬	B	B	図書館は利用者・貸出数とも好調。今後さらに選書や利用面で各教科や各部との連携を密にし、学習センターとしての機能を充実させたい。岡田小の読み聞かせ活動は12名が参加。意識の高い生徒が多く充実した活動ができた。視聴覚委員会は行事の動画撮影等を行った。行事での映像活用等の場面でさらに活躍させたい。
		新着図書案内の広報活動やブックファンタジーを通して、読書意欲を喚起する。貸し出し図書数と利用者数が昨年度を上回るように努力する。また、国語科・美術科や学年と協力して、学習課題としての読書感想文や読書感想画の読書指導を企画し実践する。	⑨⑩⑪⑬	A		
		読み聞かせボランティア活動を通して、積極的に読書と社会に関わる態度を養う。	⑥⑨⑫	A		
	目的意識を持った計画的な自主学習を支援し、生きる力や自ら学ぶ力を育てる。	大学入試の小論文テーマなどを参考にして、主題毎の図書を揃える。	①⑤⑥	A		
		学年・教科と連携協力しながら図書を購入し、情報を提供するように努める。また、学習室としての機能を充実させて、利用者の増加を図る。	①③⑤⑥	B		
	視聴覚教育活動の育成、振興及び健全な発展を図る。	委員会の活動を充実させ、放送や映像制作を通して豊かな言語活動を推進する。	⑨⑩⑪⑫	B		
		I C Tを活用して校内行事の記録・編集・発信を行い、校内行事の活発化をサポートする。	⑨⑩⑪⑫	B		
渉外	P T A総会・支部懇談会への出席率を上げる。	P T A活動による生徒の健全育成のための意識を高め、参加を呼びかける。	⑩	A	A	保護者の意見をより多く取り入れていくこと。保護者の求める情報を提供する機会を設け、家庭においても進路を考えられる環境づくりをすること。行事や活動の精選を行うこと。
		支部懇談会等で支部顧問教諭が、進路情報を提供するとともに、保護者の進路意識の向上に努める。	⑨	A		
	P T A各種委員会活動を役員主導で行えるようにする。	P T A活動を通し、会員相互の親睦・共通理解を深める。	⑩	B		
		紫輝祭、進学講演会、支部対抗球技大会、研修旅行等の企画・運営について、役員と話し合いを持ちながら、協力して実施できるように努める。	⑩	A		
	校外研修の結果を本校生徒指導に反映させる。	校外研修等に積極的に参加し、生徒指導の在り方について知識を深め、多くのP T A会員に広めるよう努める。	⑩	A		
教育相談	教職員の特別支援についての知識を向上させる。	校内研修会を実施する。	⑧⑨	A	A	不登校生徒への対応
	組織的・計画的な教育相談を実施する。	生徒や保護者の希望に応じてカウンセリングが受けられるように調整する。	⑧⑨	A		
		スクールカウンセラーの効果的活用を努める。スクールソーシャルワーカー派遣制度を必要に応じて活用する。	⑧⑨	A		
		特別な支援を要する生徒に対してケース会議や特別支援委員会を設け、組織的な支援体制づくりを推進する。情報共有に努める。	⑧⑨⑩	A		
国際教育	国際交流を奨励する。	オーストラリア姉妹校派遣の企画・運営を行う。	⑬⑭	A	A	北米語学研修参加希望者多数時の公正な選出方法の考案と周知 姉妹校受け入れに向けての円滑な準備
	国際教育事業の宣伝・広報活動を適切に行う。	姉妹校交流プログラムの周知に努める。	⑬⑭	A		
	校外関係諸機関と連携し、国際教育活動の充実を図る。	外部団体からの事務連絡内容を精選して生徒に案内する。	⑨⑬⑭	A		
		J I C Aや国際交流協会等主催行事への積極的な参加を促す。	⑨⑬⑭	A		
事務部	安全で快適な学習環境づくりに努める。	校舎及び設備などの定期的な点検を推進し、安全管理に努める。また不備があった場合は早期改修をする。	⑩	A	A	築40年以上が経過し修繕箇所が多いが、優先度を考慮し

別紙様式 2 (高)

第 1 学年	環境問題を考慮して節約に努める。	エアコンや照明、及び電気製品の使用において、効率的な節電に努める。⑩	B	A	迅速に対応する。 教員との連携を密にし、適切なタイミングで予算を執行していく。
	漏水等に注意を払いながら、節水に努める。	⑩	A		
	会計事務の適正な執行に努める。	予算の執行について、計画性、経済性、効率性を考慮しながら、最大の効果が出るように進める。⑩⑪	A		
	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	挨拶の励行・時間厳守など基本的な生活習慣の確立を目指す。校内規則を遵守し、礼儀・服装などに対する意識を高めて規範意識の向上を図る。HRや部活動、委員会活動などすべての活動の中で基本的な生活習慣を確立することと規範意識の向上を図る。⑧⑩	A		
第 2 学年	主体的な学習習慣の確立と基礎的・発展的学力の定着	授業を中心とした学習習慣の定着を図り、予習→授業→復習の学習サイクル確立を目指す。学習習慣の確立をしたうえで基礎学力の定着を目指し、その基礎学力を礎とした発展的な学力の育成と ICT 活用能力の育成を図る。①③⑧	B	A	学習習慣の定着を目指す。 特に自主的な学習態度を確立する。 ICT 活用能力の育成を図る。 生徒一人ひとりの進路実現に向けた指導を行う。 他者を思いやり行動できる態度を育成する。
	高い進路目標の設定	個人面談をととして生徒との信頼関係を構築し、各人に対して丁寧な進路指導を行う。⑤⑨ 高い進路目標を設定しそれに向けて努力する姿勢を養う。進路講演会や校外模試などを有効に活用し、機会を逃さない進路指導を行い、進路目標の明確化と的確な文理選択へ導く。⑨	A		
	豊かな人間性の育成	HRや部活動、委員会・探究活動などすべての活動の中で各人が責任を持った行動が出来るよう、他者とのコミュニケーションをととして人間性を育成し、成長を促す。⑨⑩⑪	A		
	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	挨拶の励行、時間厳守など基本的な生活習慣の確立を目指す。校内規則の遵守、場に応じた礼儀・服装などに対する意識を高めることで規範意識の向上を図る。HRや学校行事、あるいは部活動、委員会活動などすべての活動の中で基本的な生活習慣を定着していく。⑧⑩	B		
第 3 学年	主体的な学習習慣の確立と基礎学力の定着	授業を中心とした学習形態を定着させ、予習→授業→復習の学習サイクルの中で、基礎学力の定着を目指す。ICTや課外を活用し基礎学力の上に発展的な学習を行い、主体的に学ぶ姿勢を育む。①③⑧	B	B	朝活習慣の徹底 学校内外での行動に対する責任感の向上 進路実現に向けた探究活動の充実 新課程入試に向けた対策の確立
	確実な進路目標の設定	適切な時機に個人面談を実施し、面談をととして生徒との信頼関係を構築し、生徒ひとり一人に対して丁寧な進路指導を行う。⑤⑨ 一人ひとりのライフキャリアに適した進路目標を設定するため、学問分野について理解を深める機会を設ける。進路意識の高揚に向け、進路講演会や模試などを定期的に実施する。時機を逃さずに進路指導を行い、各人の進路実現に向けた環境を提供する。⑨	A		
	豊かな人間性の育成	HR活動や学校行事、部活動や委員会活動などを通じ、生徒自らが考え、判断し、活動する機会を設ける。他者とのコミュニケーションをととして人間性を育成、醸成して成長を促す。⑨⑩⑪	A		
	進路目標の早期設定と適切な進路指導の徹底をはかる。	進路講演会、進路ガイダンス等により進路意識の高揚を図るとともに、各人の将来のキャリアとリンクした進路選択を行えるよう面談等を通じて情報を共有する。⑤⑥ 個に応じて総合型選抜や学校推薦型選抜、国公立大学個別試験に向けて、早期から計画的に小論文・面接の指導を実施する。⑥⑦	A A		
第 3 学年	学力向上と受験体制の確立を図る。	授業の質をより高めるとともに、週末課題や小テストによる家庭学習の強化や、課外授業による入試に対応した学力の練成を進める。①②④⑦ 個に応じて基礎基本の定着と発展的内容の習得を目指す学習を展開し、進路実現に寄与するとともに、グ	B B	B	企画内容の精選、仕事内容の記録と蓄積を確実に行う。進学・受験した生徒の受験内容や情報の引き継ぎを整理する。

別紙様式 2（高）

		ループワークや探究活動、学校行事やクラス活動を通じて自らの考えを適切に伝え他者とのより良いコミュニケーション能力の向上を図る。 ①⑥			
	最高学年としての自覚ある生徒の育成と社会性の確立に努める。	学校行事や部活動においてリーダーシップを発揮し、より良い集団を形成する中核として自覚ある取り組みを図る。 ⑩⑪	B		
		学校の諸活動や行事を通じて、各人の責任の重さと他者と協働することの素晴らしさを体験し、社会性の確立をすすめる。 ⑨	A		

※ 評価規準：A ほぼ達成した。 B ある程度達成した。 C やや不十分であった。 D 不十分であった。